

石川県議会派遣  
(タイ訪問)  
報告書

平成26年10月  
石川県議会

# 目 次

1	訪問概要.....	1
2	日 程.....	2
3	団員名簿.....	3
4	訪問記録.....	5
5	参加議員報告.....	2 3

石川県議会派遣  
タイ訪問の概要

1 目 的

小松空港の更なる国際化に向けた取り組みを進めるため、今年度3便の運航が決定した、小松・バンコク間の双方向チャーター便を利用して、タイの航空会社、政府機関等を訪問し、小松とタイ間の就航促進に向けた調査活動等を行う。

2 訪問のあらまし

(1) 派遣期間

平成26年10月9日(木)～10月13日(月) 3泊5日

(2) 派遣議員数

6名

〔 ほか、政務活動費にて議員4名参加 〕

(3) 訪問先

タイ国際航空、タイ・エアアジアX、タイ国政府観光庁(本庁・アユタヤ事務所)、現地進出企業(ハチバン・大京)など

## タイ訪問 日程

日 時	時 間	日 程	備 考
10月9日 (木)	8:50	小松空港1F国際線カウンター前集合	
	9:10	結団式 小松空港1F「白山」	
	10:10	小松空港発 (TG8081)	
	14:30	バンコク着	時差：-2時間
		ホテルへ移動	
	18:00	タイ国際航空との面談	
	19:00	石川県人会との交流会	
			【バンコク泊】
10月10日 (金)	9:00	ホテル発	
	10:00	タイ国政府観光庁訪問	
	14:30	タイ国際航空訪問	
	15:30	ドンムアン空港視察	
		及びタイ・エアアジアX訪問	
	18:30	国際交流基金、日本政府観光局との夕食会	
			【バンコク泊】
10月11日 (土)	8:30	ホテル発	
		バンコク市内視察	
	12:00	現地進出企業（ハチバン）店舗視察	
	13:00	現地プロモーション視察	
	15:00	現地進出企業（大京）工場視察	
			【バンコク泊】
10月12日 (日)	8:30	ホテル発	
		アユタヤ歴史研究センター視察	
		アユタヤ市内視察	
	14:30	タイ国政府観光庁アユタヤ事務所訪問	
	23:30	スワンナプーム（バンコク）空港着	
			【機中泊】
10月13日 (月)	1:30	バンコク発 (TG8082)	
	8:50	小松空港着	

TG:タイ国際航空

## 石川県議会議員派遣（タイ訪問）名簿

福 村 章 （ 自 民 党 ）

北 村 繁 盛 （ 県 政 石 川 ）

中 村 勲 （ 自 民 党 ）

米 田 昭 夫 （ 自 民 党 ）

吉 田 修 （ 県 政 石 川 ）

米 光 勲 （ 県 政 石 川 ）

（随員職員 原田 一登 議会事務局総務課担当課長）

## タイ訪問団 名簿

団 長	石川県議会議員（小松空港国際化推進石川県議会議員連盟会長）	
		福村 章（自 民 党）
副団長	石川県議会議員	木本 利夫（自 民 党）※1
副団長	石川県議会議員	北村 繁盛（県政石川）
秘書長	石川県議会議員	中村 勲（自 民 党）
団 員	石川県議会副議長	米田 昭夫（自 民 党）
団 員	石川県議会議員	吉田 修（県政石川）
団 員	石川県議会議員	新谷 博範（新進石川） ※1
団 員	石川県議会議員	井出 敏朗（自 民 党）※1
団 員	石川県議会議員	安居 知世（自 民 党）※1
団 員	石川県議会議員	米光 勲（県政石川）
団 員	小松市議会議員	灰田 昌典 ※2
団 員	小松市議会議員	宮橋 勝栄 ※2
団 員	加賀市議会議員	吉江 外代夫※2
団 員	加賀市議会議員	岩村 正秀 ※2
団 員	能美市議会議長	米田 敏勝 ※2
団 員	小松商工会議所 空港・都市政策委員会委員長	堀 伸市 ※2
事務局	石川県企画振興部次長	庄司 郁
事務局	石川県企画振興部空港企画課長	臼井 晴基
事務局	石川県議会事務局総務課担当課長	原田 一登
事務局	石川県観光戦略推進部国際観光課専門員	大西 洋彰（タイ現地合流）
事務局	石川県企画振興部空港企画課主任主事	坂室 誠一郎

計 2 1 名

※1 は政務活動費による参加者

※2 は小松空港国際化推進石川県議会議員連盟からの参加者

平成26年10月9日(木)

## 結団式（小松空港）

小松空港で結団式を行い、今回の訪問団の団長を務める福村章議員から出発にあたっての挨拶があった後、副団長の木本利夫議員から訪問団の安全を祈願してジュースで乾杯した。



挨拶する福村団長



木本副団長の発声で乾杯

## 出発（小松空港からバンコクへ）

小松空港からタイ国際航空チャーター便（TG8081）にてバンコクに到着。

## 1 タイ国際航空との面談

(時 間) 18:00～18:30

(相手方) スティー・スティファン 営業戦略兼チャーター担当部長

(内 容)

### ◎挨拶概要（福村団長）

- ・小松空港の国際便を増やすため誘致活動を行っており、昨年に続きタイを訪問した。
- ・今年度は3便の双方向チャーター便を実施できることとなり、全ての便をタイ国際航空に機材提供いただきお礼申し上げる。
- ・今回の1回目のチャーター便は、双方向ともほぼ満席で運航された。
- ・来年もチャーター便に協力いただきチャーターを実施するとともに、将来は定期便で小松とバンコクをつないでいただけるのが最大の願いである。
- ・今後も協力をよろしくお願いしたい。

### ◎挨拶概要（スティー部長）

- ・今回、タイ国際航空の機材を利用いただき感謝申し上げます。
- ・千歳はチャーター便を経て定期便となっている。
- ・これまでチャーター便をうまく実施してこられたのは、タイ国際航空の努力だけでなく日本側の多大なサポートのおかげである。
- ・石川県は、豊富な観光資源、きれいな観光地があると聞いており、今後有望と思う。
- ・今後もタイ国際航空はチャーター便の運航に協力していきたいと思っている。

### ◎意見交換・質疑応答

Q：2007年にもタイ国際航空で双方向チャーターを実施した。

当時の副社長からも、将来、日本海側の小松への定期便就航に関心を示していただいていた。小松就航を検討いただきたい。

A：仙台、千歳のように、チャーター便から定期便化を検討するには、チャーター便を2～3か月に1往復程度の実績を複数年積み重ねることが前提となる。チャーター便の実績づくりをお願いしたい。

Q：千歳はチャーター便から定期便化までどの位の期間かかったのか。

A：千歳が一番長く、一番多くチャーター便を実施した。期間は10年以上。北海道はタイ人に人気で、特に雪まつりが人気。





福村団長からの挨拶



スティー担当部長（左）

## 2 タイ王国石川県人会との交流会

(時 間) 19:00～21:00

(内 容) 昨年に引き続き、タイ王国石川県人会と交流会を開催し、小松・タイ便の開設に向け、最近のタイの経済事情や石川との交流などについて意見を交換した。



開会挨拶する福村団長



乾杯挨拶する木本副団長



出村県人会会長からタイの現地事情について紹介



中締め挨拶する北村副団長

平成26年10月10日(金)

## 1 タイ国政府観光庁訪問

(日 時) 10:00～11:00

(相手方) ワラパー・アンカシリサップ 東アジア支局長

鹿野健太郎 日本市場アドバイザー

クリダ・スリソムウォン 東アジアマーケティングチーフ

(内 容)

### ◎挨拶概要 (ワラパー支局長)

- ・日本とタイは長きにわたり良好な関係を築いてきており、観光面でもタイは日本市場を非常に重要視している。
- ・2013年の日本からタイへの訪問者数は、前年比17.84%増の153万人と過去最高。今年は1～8月までで80万人と、前年比約20%減少。
- ・恐らくタイの政情不安が原因と思うが、タイ政府として万全の態勢で日本市場のマーケティングに取り組んでいる。
- ・タイの安全性を伝えることが重要であり、9月に東京で新しい観光スポーツ大臣とともに、アメージング・タイ・ナイトを開催した。その後、旅博にも出展し、タイをPRした。
- ・スワンナプーム空港で発生していたタクシーの問題や、パタヤ・プーケット等のビーチでの違法な物売りの一掃など、これまでの政府では取り組めなかったことを、今回の政府はしっかり行っていることをPRした。
- ・小松空港のバンコクへのチャーター便の取り組みを喜んでいる。
- ・チャーター便を通じて、石川・北陸のより多くの方にタイに来ていただくことを願うとともに、タイ人の観光客も石川に注目することを期待する。
- ・タイ人にとって、日本は夢の旅先であり、昨年は45万人以上のタイ人が日本を訪れ、驚異的な伸びを示しており、アジアの中でも5番目に多い。1～8月までで既に40万人を超えており、100万人を超える時代も近いと期待されている。
- ・タイから日本へはリピーターが多くおり、東京、京都、大阪の次の観光地を探しており、札幌、白川郷が既にブームになったが、小松へのチャーター便が飛ぶことで、タイ人が石川に注目することを期待している。

### ◎挨拶概要 (福村団長)

- ・石川県は、日本を凝縮したような土地で、四季がはっきりしており、一年を通じて楽しめる。温泉も豊富である。
- ・兼六園へのタイからの観光客は、昨年、約2倍に増えており、石川県からタイへの訪問者も約2倍に増えている。
- ・今年度、3便、タイ国際航空でチャーター便を実施することとなった。今回の1回目のチャーター便は、双方向とも満席に近い。

- ・チャーター便の実績を積み、出来るだけ早く定期便化することが、相互の観光客を増やすことにつながると思い、努力している。
- ・7月に東京事務所長に石川県でタイのセミナーを行っていただき、感謝申し上げます。
- ・我々も、タイで大々的にプロモーションを行っており、小松・タイ間の定期便開設に向け、タイ国政府観光庁の協力もお願いしたい。

#### ◎意見交換・質疑応答

Q：タクシーについて、タイは、メーターを倒さないタクシーもあり、どのタクシーが安全か分からないが、その対策は考えているか。

A：完全に問題が解決されているわけではないが、政府として改善に向け力を尽くしている。

例えば、スワナプーム、プーケットなど、空港では正規に登録されたタクシーのみが入れるようになっており、ほぼ100%安心いただける。

市内の流しのタクシーは問題がまだ残っているが、民間の新しい取り組みとして、スマートフォンのアプリに登録すると、運転手の顔写真も分かり、乗車記録が残るため安全性が高いと、女性を中心に注目されている。

他にもさまざまな取り組みが出てきている。

Q：来年末のASEAN経済共同体発足（AEC）に向け取り組んでいると思うが、観光面の取り組みを教えて欲しい。

A：3、4年前から、AECに向け観光面の施策を考えてきた。

AEC域内の交流促進はもちろん、ヨーロッパ、アメリカ、日本から、東南アジアへの観光について、今までは、タイはベトナムやマレーシア等をライバル視してきたが、東南アジアを拠点に数か国をまわるプランの促進を相互に行うなど、相互の協力がうまくいっている。また、その土台となる東南アジア域内のアクセス、航空便の充実を同時に進めている。



ワラパー支局長（左）

## 2 タイ国際航空訪問

(日 時) 14:30～15:00

(相手方) ウィワット・ピヤウィロ タイ、インドシナ地域営業統括副社長

(内 容)

### ◎挨拶概要 (福村団長)

- ・今年度は3便、双方向チャーターを実施することとなり、全てタイ国際航空から機材を提供いただくとのことで、お礼申し上げます。
- ・タイと北陸の交流人口は年々増えており、タイから石川、石川・北陸からタイへの訪問者数はどちらも約2倍に伸びている。
- ・北陸からタイへの進出企業は85社に達する。
- ・今後、更にタイとの交流を深め、最終目標はタイとの定期便をつくることである。
- ・2006年に初めてタイを訪問し、2007年にはタイ国際航空でチャーター便を運航した。チャーター便を積み重ね、一日も早く定期便を実現することが最大の願いである。
- ・当時の副社長から、将来、日本海側の小松への定期便就航に関心を示していただいていた。小松就航を検討いただきたい。

### ◎挨拶概要 (ウィワット副社長)

- ・日本市場は最も重要である。中・長期的な戦略として路線を増やす計画はある。
- ・千歳を成功例として挙げるが、週4便で就航し、現在はデイリー運航となっている。
- ・タイの政治不安で双方向で行き来が減ってしまったが、政治情勢は改善しており、チャーター便、定期便、いずれも前向きに検討していきたいと思っている。
- ・チャーター便を継続的に就航し、さらに利用者を増やしていきたいと思っている。

### ◎意見交換・質疑応答

Q：来年、再来年もチャーター便の回数を増やして実施したいと思っているので、協力をお願いしたい。

また、日本海側の最初の就航先として、小松への定期便をお願いします。

A：先ほども言った通り、日本の乗り入れ地点を増やす計画はあるが、その前には、チャーター便の回数を増やして実績を作ることだと思う。



中村秘書長による進行



ウィワット副社長（中央）

### 3 ドムアン空港視察及びタイ・エアアジア X 訪問

(日 時) 16:00～17:00

(相手方) サリット・タントラポーン 事業開発部長

ニルス・スリパワタークル 営業部長

ジェラナン・スリヤジャンタコーン フライトアテンダントマネージャー

ナッティヤ・ウングシリクル 事業開発部担当

(内 容)

#### ◎挨拶概要 (福村団長)

- ・石川県をあげて、国際線の誘致に取り組んでいる。
- ・タイには2006年に初めて訪問し、昨年も訪問している。
- ・今年度、3便の双方向チャーターを実施することとなり、その1回目でタイにやってきた。双方向ともほぼ満席で盛況である。
- ・タイと北陸の交流人口は年々増えており、タイから石川、石川・北陸からタイへの訪問者数はどちらも約2倍に伸びている。
- ・北陸からタイへの進出企業は85社に達する。
- ・台湾や香港からの観光客は、東京、大阪、札幌、九州などの次の行先として、北陸へ多くの方が来ている。
- ・東南アジアの中心のタイとの路線は、我々の念願であり、日本海側の拠点空港である小松への定期便を検討いただきたい。

#### ◎挨拶概要 (サリット部長)

- ・タイ・エアアジア X は飛行時間4時間以上の中、長距離路線を運航するLCCで、現在は、ソウル、成田、関西に就航している。
- ・機材は現在の2機から今後増やしていく予定で、路線も増やしていきたい。
- ・予約はインターネットが中心で、旅行代理店は少ない。
- ・利用者は、若者、個人旅行が多く、1度の旅行で複数都市を巡る傾向がある。
- ・また、ソーシャルメディアで多くの情報を収集し、旅行している傾向。
- ・顧客は、割安な運賃を求めており、我々の商品はそれに応えている。

#### ◎意見交換・質疑応答

Q：地方空港の小松に魅力を感じるか。

A：石川県には素晴らしいところがあり、興味は感じた。

課題は、タイ人にいかに石川県のことを知ってもらうかということで、プロモーションの方法を工夫する必要がある。

営業部の観点として、日本には注目しており、今後2～3年は双方向で伸びていく市場と思っている。

白川郷、高山、立山黒部などへのアクセスの情報を含め、石川県をいかにタイ人に知ってもらうかが重要。

今回、石川を訪問したタイ人の口コミが広がり、今後チャーター便が増え

ることも期待できる。

石川県は、可能性はあり、まずはチャーター便の運航も考えられると思う。

Q：直行便が無くても、昨年の石川・北陸とタイとの交流は2倍に伸びている。

今後、地方空港へ運航する際には、小松を念頭をお願いしたい。

一度、小松空港を見に来ていただければと思う。

A：今後も双方向での需要喚起に向け、プロモーション活動を是非お願いしたい。また、新しい情報があれば、情報提供いただけるとありがたい。



ドムアン空港を視察



エアアジアのカウンター前



サリット部長(一番左)、ニルス部長(一番右)



#### 4 国際交流基金、日本政府観光局との夕食会

(時 間) 18:30～20:30

(内 容) 国際交流基金バンコク日本文化センターの福田和弘所長、日本政府観光局（JNTO）バンコク事務所の伊東和宏所長との夕食会にて、小松・タイ便の開設に向け、タイからの訪日観光事情、日タイの交流事情について意見を交換した。

国際交流基金バンコク日本文化センターの福田和弘所長から、小松・タイ便の開設に向け応援するとの言葉をいただき、日本政府観光局（JNTO）バンコク事務所の伊東和宏所長からは、タイから日本への観光需要は非常に旺盛であり、観光要素の多い石川県もしっかりPRしていきたいとの挨拶があった。



国際交流基金福田所長から日タイの文化交流について紹介



日本政府観光局伊東所長から、タイからの訪日観光事情について紹介

平成26年10月11日(土)

## 1 バンコク市内視察

(時 間) 10:00～11:00

(内 容) 今後のチャーター便を使ったツアー商品造成の参考とするため、バンコクの観光を代表する王宮、エメラルド寺院、ねはん寺を視察。タイを訪れる観光客の定番ルートと言われており、今回のチャーター便のツアー商品でも選択できるコースとなっている。当日は天候が良くなかったが、世界各国からの観光客で賑わっていた。施設の概要、ポイントなどについて、現地ガイドから説明を受けた。

## 2 現地進出企業（ハチバン）店舗視察

(時 間) 12:00～13:00

(内 容) ショッピングモール（セントラルプラザ・グランドドラマIX）内の8番らーめんを訪問し、清治洋ハチバントレーディング（タイランド）社長とタイでの事業について意見交換した。

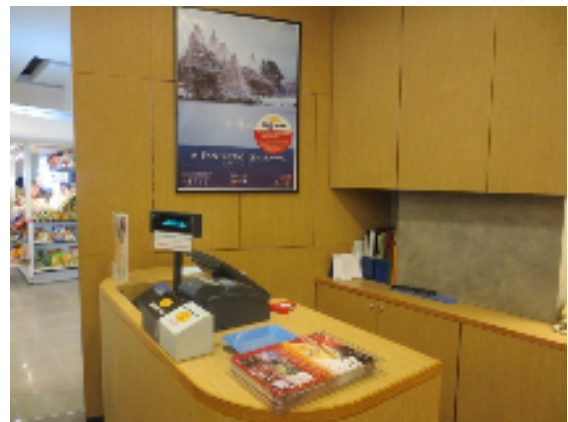
8番らーめんのタイでの店舗数は108店舗と、昨年の100店舗突破後も、拡大を続けている。



混雑する店内



清治社長（右側手前から2番目）



店内レジ横に貼られた石川県のPRポスター

### 3 現地プロモーション視察

(時 間) 13:00～13:30

(内 容) バンコク中心部のショッピングモール（セントラルプラザ・グラนด์  
ラマIX）にて実施されている石川県のプロモーションを視察した。  
映像、ポスターでの石川県の観光PR、石川県の伝統工芸である金箔  
貼り体験、12月のチャーター便を使った旅行商品の案内等が行われ  
ており、石川県の観光地や伝統文化にタイの方々の関心が集まってい  
た。



現地プロモーション会場



石川県のPR映像の視察



スタッフからの説明を受ける



伝統工芸・金箔貼り体験の視察

#### 4 現地進出企業（大京）工場視察

（日 時） 15：00～16：00

（相手方） 大京株式会社 二宮 吉男 代表取締役社長  
大京タイランド 北山 尚平 社長

（内 容）

##### ◎挨拶概要（福村団長）

- ・石川県は、東南アジアに力を入れており、10月1日にはシンガポールに県事務所も開設された。
- ・今後も頑張ってください、石川県の名前をタイでとどろかせていただきたい。

##### ◎挨拶概要（二宮社長）

- ・大京は38周年を迎える。日本に3工場、中国に3工場、タイに1工場。
- ・タイの政治不安で、難しい局面もあったが、軍政で安定してきた。
- ・日本国内では人材確保が難しい面もあり、中国、タイへ業務移管も行っている。
- ・年末に日本への帰省で、12月のチャーターを使いたいとの社員もいる。

##### ◎工場の概要説明（北山社長）

- ・タイ工場の敷地は83,000㎡、東京ドーム1.8個分。  
うち、工場面積は約10,000㎡。
- ・一貫製造ラインにより建設機械運転席ユニットを製造している。

##### ◎意見交換・質疑応答

Q：労働紛争はないのか。

A：この地域ではあまりないが、12月の賞与の時期を迎え、いくつかの企業ではあると聞いている。

Q：労働安全衛生で気を付けている点はあるか。

A：3～5月は非常に暑い時期で、工場内の温度が40度を超えるため、水分補給などを行うことにより脱水症状などに注意を払っている。

Q：従業員の生活レベルはどの位で、バンコク・小松のチャーターを利用できるレベルはどの位か。

A：タイは貧富の差が激しい国。勤続10年以上のマネージャークラスでないと、日本へ旅行する余裕はないと思うが、タイ人の従業員は全員日本に行きたがっている。

マネージャークラスを、日本で研修させるため、年間10人程度、日本に送り込みたいと思っている。

Q：文化の違う従業員を雇う苦勞があれば教えて欲しい。

A：タイ人は優しい心を持った人々だと思う。ただ、日本人ほど真面目に働かない文化もあり、キャリアプランを示しながら、少しずつ教育を行っている。

く他ないと考えている。

Q：社内で日タイ友好親善の活動はあるか。

A：タイでは貧しい地域も多く、大京として何が出来るか考えながらやっている。直近では、パソコンの買い替えがあり、古いパソコンを近隣の小学校に贈った。

Q：日本の工場では人材確保が難しい面もあるとのことだが、どのように分析しているか。

A：日本の若者を雇用するには、今までの考え方を変えないと難しいかもしれない。タイでも賃金が上昇してきている。



タイ工場外観



挨拶する二宮社長（右奥）



北山社長の説明で工場視察



北山社長の説明で工場視察

平成26年10月12日(日)

1 アユタヤ歴史研究センター視察、世界遺産アユタヤ視察

(時 間) 10:00~12:00

(内 容) 今後のチャーター便を使ったツアー商品造成の参考とするため、世界遺産のアユタヤを視察するとともに、日タイの交流の歴史資料を展示する歴史研究センターを視察し、現地ガイドの解説を受けた。

アユタヤは1351年から1767年までの417年間、タイ王国の都であり、日本人も、山田長政をはじめ、3千人が生活していた。

アユタヤには当時の繁栄ぶりが分かる遺跡が多く残っており、日本との交流の歴史など、バンコクとは異なる観光要素があることを確認した。



アユタヤの歴史の展示を視察



日タイの交流の歴史を解説する映像



観光客で混雑する世界遺産の遺跡



観光客で混雑する世界遺産の遺跡

## 2 タイ国政府観光庁アユタヤ事務所訪問

(日 時) 14:30～15:30

(相手方) チャイワット・チャルンスック アユタヤ事務所長

(内 容)

### ◎挨拶概要 (福村団長)

- ・我々は、バンコクと小松の定期便開設に向け活動しており、昨年に続きタイを訪問している。
- ・今年度、3便の双方向チャーターを実施することとなり、その1回目でタイにやってきた。双方向ともほぼ満席で盛況である。
- ・午前中、アユタヤの素晴らしい世界遺産を視察したが、石川県も素晴らしい観光地がある。
- ・日本とタイ間の交流は拡大しているが、石川県とタイ間の交流も昨年は2倍に増えている。
- ・アユタヤと石川県の交流を深め、観光客を増やしていくためにも、小松・タイ間の定期便を実現したいと思っている。アユタヤ事務所長にも是非協力をお願いしたい。

### ◎挨拶概要 (チャイワット所長)

- ・統計上の数字は無いが、アユタヤでは、政治不安による観光客減少の影響はそれほど出ていないと思う。
- ・双方向で需要を喚起していくことが重要であり、チャーター便を運航するときは、東京事務所がプロモーションの協力をさせていただく。
- ・日本とタイの交流は500年以上の長い歴史がある。
- ・アユタヤ県、石川県と観光面で関係を深めていきたいと思う。
- ・アユタヤ県知事が石川県を訪問したり、アユタヤ県のミッションが石川県を訪問するレベルに、今後、関係を深めることができればありがたい。

### ◎意見交換・質疑応答

Q：日本ではニューツーリズムが流行っているが、タイで寺院など遺跡観光以外の新しい観光はどのようなものがあるか。

A：タイではニューツーリズムはまだ無いが、アユタヤの場合、寺院が多いので、タイで「進歩」と発音が同じ「9」にかけて、一日に寺院を9か所まわるなどがある。また、需要に合わせてアレンジできる。

その他、医療ツーリズムなどもある。

Q：世界遺産に登録され、アユタヤの住民の意識は変わったか。また、世界遺産に登録されると、修復に制限があるのか、修復の計画を教えて欲しい。

A：ユネスコが修復費用の一部をサポートしてくれているが、管理は県が自ら行う必要がある。

遺跡での物売りにユネスコから苦情があるが、貧困層がまだ多く、追い出す

こともできないところ。その他、マフィアの密売などに対し、管理をしっかり行っていく必要がある。

また、世界遺産を一緒に守っていくよう、住民の認識も高める必要がある。

Q：宿泊手段として、ホームステイもあるようだが、利用状況は。

A：一例だが、街中で、アユタヤ人が運営しているホームステイを見かけたが、14室ある部屋が満室だった。1泊1700～2200バーツと高めだが、人気がある。



中村秘書長による進行



チャイワット所長（左奥）



# 石川県議会派遣 タイ訪問 報告

石川県議会議員 福村 章

今年度も昨年度に引き続き、石川県議会派遣団の団長として、また、小松空港国際化推進議員連盟会長として、タイを訪問した。昨年タイ訪問の成果が実り、今年度は小松とバンコク間の双方向チャーター便が3便運航されることとなり、その1便目で今回の訪問が実現した。

小松空港は、台北便がデイリー化されるなど、日本海側の拠点空港として、飛躍しているところであるが、北陸新幹線金沢開業を控え、小松空港の国際化はますます重要となってきた。

東南アジアは、新しくシンガポールに県事務所が開設され、本県との交流が拡大している地域でもあり、今回の派遣では、タイの政府機関や航空会社を訪問し、小松空港への就航を強く働きかけ、将来の定期便化に向けて、着実に前進ができたと思っている。

以下、今回の訪問の主な内容について報告させていただく。

## 結団式

出発当日、小松空港にて今回の訪問団の結団式を行った。団長である私から団員に対して今回の訪問が充実したものとなるよう協力をお願いするとともに、今回の訪問先であるタイ国際航空の中部日本地区総支配人のウィラワット氏にお越しいただき我々に出発にあたっての激励の言葉をいただいた。お忙しい中お越しいただいたウィラワット氏に感謝申し上げます。

## 訪問1日目

### ●タイ国際航空

タイ国際航空のスティー営業戦略兼チャーター担当部長と面談し、今年度3回の双方向チャーター便の機材提供のお礼と来年度以降のチャーター便就航及び将来の定期便開設の協力依頼を行った。スティー部長からは、チャーターを積み重ねることで、将来、定期便化の可能性が出てくる、今後もチャーター便の運航に協力していきたいという力強い言葉をいただいた。

### ●石川県人会との交流会

昨年に引き続き今年もタイ石川県人会の皆さんとの交流会を開催し、最近のタイの経済事情や石川との交流などについて意見交換を行い、親好を深めることができた。県人会の皆さんにはタイでの石川・北陸地域のPRをはじめ、石川とタイとの交流等を通じ、小松空港とタイとの定期便の就航促進に向けた石川の強力なサポーターとして、今後も活躍されることを期待する。

## 訪問 2 日目

### ●タイ国政府観光庁本庁

政府観光庁のワラパー東アジア支局長と面談し、今年 7 月に観光庁東京事務所長に本県にお越しいただきタイへの旅行セミナーの開催をいただいたお礼と本県からタイへの就航促進の協力依頼を行った。

タイと石川・北陸との交流人口は年々拡大しており、石川の代表的観光地である兼六園では、2013年のタイからの来訪者が前年比の約 2 倍となっており、また、石川・北陸からタイを訪れる観光客数も順調に増加している。

ワラパー局長からは、観光面でタイは日本市場を非常に重要視しており、大臣自ら日本を訪問しタイの PR を行っていること、小松空港のバンコクへのチャーター便の取り組みを喜んでおり、チャーター便を通じて、石川・北陸のより多くの方にタイに来ていただくことを願うとともに、タイ人の観光客も石川に注目することを期待していること等の発言があった。

今後も引き続きタイと石川の観光交流が進むよう政府観光庁との連携を深めていきたい。

### ●タイ国際航空

タイ国際航空本社を訪問し、ウィワット タイ・インドシナ地域営業総括副社長と面談した。ウィワット副社長へは、今年度のタイ小松チャーター便 3 便への機材提供のお礼をするとともに、来年度以降のチャーター便への協力と、日本海側の最初の就航先として小松への定期便の乗り入れを強く要請した。

ウィワット副社長からは、中長期戦略として日本の乗り入れ地点を増やす計画はあるが、その前にチャーター便の回数を増やして実績を作ることが重要だという発言があった。

今後もできるだけチャーター便の回数を増やしていく努力が必要だと感じた。

### ●タイ・エアアジア X

LCC（格安航空会社）として日本との定期航空路線を有するタイ・エアアジア X 本社を訪問し、サリット事業開発部長及びニルス営業部長と面談した。

両氏には、日本への路線展開の考え方について聞くとともに、日本海側の拠点空港である小松空港への定期便の検討を依頼した。

両部長から、まず、日本への路線展開について、現在、日本へは成田・関西便の 2 路線であり、保有機材は 2 機であるが、今後路線を増やしていきたいという発言があった。また、小松空港への定期便の検討について、石川県への興味は感じるので検討の可能性はあり、まずチャーター便という方法も考えられる。今後も石川・タイ双方向での需要喚起に向け、プロモーション活動をお願いしたいといった意見をいただいた。

国内でも運賃の安い LCC の需要が高まっている中で国際便の選択肢として今後

も検討していく余地があると感じた。

### 視察3日目

#### ●大京タイランド

小松市に本社を持つ大京株式会社のタイ現地法人「大京タイランド」を訪問し、本社の二宮社長及び大京タイランドの北山社長と面談するとともに、現地工場の視察を行った。

お二人に対して、将来の小松・タイ間の定期便開設に向けて、ビジネスにおける石川とタイとの往来等についてお聞きした。

お二人からは、年末の帰省の際に12月のチャーター便を利用したいという社員がいるほか、日本での研修のため、タイのマネージャークラスの社員を日本に送り込みたいといった話を聞くことができた。

### 視察4日目

#### ●タイ国政府観光庁アユタヤオフィス

政府観光庁アユタヤオフィスのチャイワット事務所長と面談し、世界遺産であるアユタヤの観光事情、アユタヤオフィスの取り組みについてお聞きするとともに、タイとの定期便実現の協力をお願いした。

チャイワット事務所長からは、アユタヤ県、石川県双方において、観光面での関係を深めていきたい、双方の県知事が訪問し合うレベルになれるとありがたいとの意見をいただいた。

今回の訪問を機会として両県の交流が深まることを期待する。

### まとめ

今回の訪問を通して、タイの石川・北陸に対する関心の高まりを直に感じる事ができたと思う。また、タイ国際航空から改めてチャーター便の積み重ねが定期便就航への道筋であることを確認し、今年度に引き続き来年度もチャーター便の就航を継続することが必要であるとの認識が高まった。

県執行部には引き続き就航促進に努力をいただき、県議会としても継続した働きかけを行っていきたい。

最後に今回の訪問に関わった皆さんに感謝を申し上げ、派遣報告とさせていただきます。

## 石川県議会派遣 タイ訪問報告

石川県議会議員 北村 繁盛

平成26年10月9日から10月13日までの3泊5日の日程で、県議会派遣の一員として、タイを訪問した。昨年の同時期にもタイを訪問し、航空会社等へチャーター便や定期便就航を働きかけたところ、タイ国際航空により年3便のチャーター便が運航されることとなった。今回はその1便目を利用して、タイ国際航空をはじめとした航空会社を訪問し、定期便就航に向けた更なる働きかけを行うとともに、タイ国政府観光庁や現地進出の県内企業を訪問し、本県からタイへの就航促進を図るためタイの観光事情やビジネス事情等について調査を行った。

まず、タイで最初に訪問したタイ国際航空では、来年度以降のチャーター便就航及び将来の定期便開設の協力依頼を行った。定期便化の成功例として、千歳空港の例があった。千歳空港は、特に雪まつりが開催され訪問者が増える2月時期に集中してチャーター便を運航するなど実績づくりを行い、チャーター便就航から10年以上をかけて定期便化にこぎつけたとのことであった。チャーター便を増便し実績を積み重ねることが定期便化への近道であることを確認できた。

その後、LCCで中・長距離路線を運行するタイ・エアアジアXに訪問し、日本国内にも定期路線を持つ同社の路線展開の方針等について調査を行った。同社は現在、ソウル、成田、関西空港に就航しており、今後路線を増やしていく予定である。同社は日本に関心を示しており、今後、双方向で伸びていく市場であるとの認識を持っており、石川県をいかにタイ人に知ってもらうかプロモーション活動を行うことが重要であるとのことであった。日本でも観光、ビジネス両面で存在感が増しているLCCによる新規路線開拓も検討していく必要があると感じた。

行程2日目と4日目には、タイ国政府観光庁本庁とアユタヤ事務所を訪問した。まず、観光庁本庁においては、タイと日本との観光面での相互交流などの状況を調査、小松・タイ間の定期便就航に向けた協力依頼を行った。観光庁では、日本の大手旅行会社との会談で日本とタイ相互交流の人数を300万人とする取り組みを行おうという話が出たということだった。また、新しい観光スポーツ大臣は日本企業の会長を兼任しており、日本への思い入れも深く、日本でのタイ観光のPRを積極的に行っている。日本・タイ相互の観光をPRすることで、定期便就航につながることを期待する。次に、観光庁アユタヤ事務所においては、今後のチャーター便を使った商品作りに活かすため、世界遺産アユタヤの観光事情について調査を行った。事務所長からは、チャーター便運航の際には、観光プロモーション活動の協力をさせていただくとのことであった。また、寺院の多いアユタヤの特徴を活かした観光

アレンジを行っているとのことであった。観光面において、アユタヤ県と石川県の関係を深めることが出来ればと感じた。

行程3日目には、小松市の大京株式会社がタイに進出し設立した大京タイランドを訪問し、タイでの事業概要をお聞きし、現地工場の視察を行った。大京はコマツグループのパートナー企業として、建設機械運転席ユニットを製造し、製品をコマツに供給している。大京タイランドは従業員数が240人であり、ほとんどが現地のタイ人である。大京タイランドの社長からはマネージャークラスのタイ人従業員を研修のため日本に送り込みたいという話もあり、従業員のタイと小松間の往来が益々盛んになればよいと感じた。

今回の訪問を通じ、改めて、小松とタイ間で定期便を就航するには、今後のチャーター便の積み重ねが大変重要であり、来年度以降もチャーター便を継続して行うべきであると感じた。そのためにもタイにおける石川の認知度向上の取組はもちろんのこと、石川県側からの送客についての対策が必要であり、県として必要な運航支援、PR活動を行っていただきたいと思う。今年度のチャーター便の取り組みの成果が将来の定期便化につながるよう願うものである。

## 石川県議会派遣 タイ訪問 報告

石川県議会議員 中村 勲

今回、タイ国際航空の御協力をいただき、小松とバンコク間の双方向チャーター便が運航されることとなり、その1回目の便を利用し、県議会のタイ訪問が実現した。

タイは東南アジアの国々の中でも著しい経済成長を遂げている国の一つであり、近年、日本企業の進出も進んでいる国である。また、豊富な観光資源を持つことから、軍政が敷かれる中にあっても、近隣諸国や欧米などから多くの観光客を引き寄せている。また、昨年7月の訪日ビザ免除以降、タイから日本へのビジネスや観光目的での訪問が増加している。

このような中、今回の双方向チャーター便が運航されることは、タイと日本の双方にメリットがあり、日本海側の拠点空港である小松空港に就航する意義は極めて大きいものとする。

以下、今回の訪問先での所感を簡潔にまとめさせていただく。

### タイ国際航空訪問

訪問1日目・2日目にタイ国際航空のスティー営業戦略兼チャーター担当部長及びウィワット タイ・インドシナ地域営業総括副社長と面談し、今年度3回の双方向チャーター便実施に協力いただいたお礼と来年度以降のチャーター便就航、定期便化に向けた協力依頼を行った。

両者からは、今後チャーター便の数を増やしていくことが将来の定期便化につながる、今後もチャーター便の運航に協力していきたいとの前向きなご意見をいただいた。

今回は双方向でほぼ満席であり、今年度2便目以降の集客も好調であると聞いているが、チャーター便を継続していくには、タイへの利用客の確保と同時に本県のタイでの認知度を向上させることでタイから小松への利用客を確保することが重要であるとする。

### 現地在住石川県関係者等の交流

今回、タイ石川県人会などタイ在住の石川県関係者の皆さんと交流する機会を得た。最近のタイの経済、旅行事情や石川との交流などについてお話を伺い、お互いに交流を深めることができた。現地在住の皆さんにはぜひ今後ともタイで石川県の観光、伝統文化などを周知していただき、石川とタイとの友好親善の発展に御協力をいただきたいと強く思う。

### タイ国政府観光庁訪問

訪問2日目・4日目にタイ国政府観光庁本庁とアユタヤ事務所を訪問し、ワラパ

一東アジア支局長及びチャイワットアユタヤ事務所長と意見交換を行った。

両者からは、日本とタイの交流の歴史は長く、タイ国政府としても観光面で日本市場を重要視しており、今後もタイと石川県との観光面での交流を深めていきたいとの御意見を伺った。

今後、双方向チャーターの継続、定期便化を実現していくためには、双方向で観光客を増やしていくことが不可欠であり、今後も政府観光庁に御協力をいただき、観光面での交流を深めていく必要性を感じた。

#### 現地進出企業訪問

訪問3日目に石川県内からの現地進出企業として、(株)ハチバンの現地店舗、大京(株)の現地工場を訪問した。

ハチバンが出店する8番ラーメンの店舗数はタイ国内で年々増加し、108店舗にまで出店数を伸ばしている。タイの現地の方々にも盛況であり、現地に進出した石川県企業の成功例と言えるだろう。

一方、大京はコマツグループのパートナー企業として、タイ・中国に海外拠点を置き、建設機械運転席のユニットを製造している。タイでの事業が今後とも成長していくことを願うものである。

今回の訪問を通し、両社の現地でのご苦勞、ご努力がよく理解でき、タイで活躍されることで今後ますます石川とタイの友好交流が深まっていくことを期待したい。

#### 終わりに

タイへの議会派遣での訪問は、5年振りであったが、5年前と比較し、県内企業のタイへの進出が進んでいるなど石川とタイとの距離感がますます近づいているという実感を持った。

今回の派遣の成果を、議会を通して県政に活かすことが出来るように今後も取り組んでいきたい。

# 石川県議会派遣 タイ訪問報告

石川県議会議員 米田 昭夫

## はじめに

北陸新幹線金沢開業があと半年というところまで来ており、小松空港の国内線の約8割を占める羽田便の利用者減は確実なものとなっており、さらには金沢―敦賀間開業の3年前倒しの期待が高まる中、小松空港の国際化が急務となっている。

現在、小松空港の国際線の旅客数は16万人弱と国内線の212万人の1割にも満たない状況であり、過去チャーター便で実績のあるタイ国への定期便就航は小松空港活性化のためにも必ずや実現をしなければならない案件である。

今年度は今回と12月、2月の計3回の双方向チャーター便を実施することとなり、今年2月に招聘旅行を実施したタイ旅行業協会の方々のタイ国内でのプロモーション活動もあって、今回は双方向ともほぼ満席という結果となった。

小松空港の定期就航に向けては、まずは双方が定期的に交流し、情報を交換し、今後とも地道にチャーター便の実績を作ることが重要となってくる。

以下、主なものを中心に報告させていただくこととする。

### ●タイ国際航空

タイ国際空港は今回のチャーター便の機材を提供していただいた航空会社であり、ウィワット副社長、スティー部長から現状並びに定期便就航に向けての課題について、次のとおり話をいただいた。

- ・チャーター便から定期便化を実施するためには、チャーター便を2～3ヶ月に1往復程度実施する必要がある。
- ・千歳空港のチャーター便は10年以上実施し、定期就航後は当初週4便で就航し、現在はデイリー運航となっている。
- ・雪のないタイの方々にとって、北海道は特に雪まつりが人気であり、2月に集中している。
- ・現在、小松の他に鹿児島、岡山、広島への路線を増やす計画がある。

主なやりとりは上記のとおりであり、小松空港の定期便化のためには、まずはチャーター便での実績の上積みが必要条件であることをご提示いただいた。まずは今年度の3回のチャーター便を成功させ、来年、再来年とチャーター便の回数を増やす継続的な努力が重要となってくる。

### ●タイ国政府観光庁

タイ国政府観光庁ではタイ政府の対日の観光への取り組み状況についての情報を交換した。

- ・2013年の日本からタイへの訪問者数は、前年比17.84%増の153万人と



過去最高であること。

- ・タイの政情不安により1月から8月までは前年比20%減であること。
- ・新しい観光スポーツ大臣は、東芝タイランドの会長を兼ねており、日本への造詣も深く、日本市場をより重要視して取り組むこととしていること。
- ・タイ人にとって日本はアジアの中でも5番目に多く、100万人を超える時代も近いと期待されていること。
- ・タイから日本へはリピーターがおおく、東京、京都、大阪の次の観光地として、小松へのチャーター便が飛ぶことで石川への注目が集まる。
- ・石川県は日本を凝縮したような土地で、京都と並び称され、北海道や沖縄と違って四季がはっきりしており、一年を通じて楽しめ、温泉も豊富である。

タイ国としては今後とも訪日者数が伸びる見通しであるとのことであった。本県の評価については比較的高いと感じたが、本県は四季などの情景もさることながら、金沢には「公家文化の京都」とは違った「武家文化」・「サムライ」の文化があり、文化の違いについても発信していければ、更に他都市との違いをアピールできるのではないかと感じた。

#### ●タイ・エアアジアX

タイ・エアアジアXは中・長距離路線専門のLCCであり、成田と関西に就航している航空会社である。現状並びにチャーター便就航に向けての課題について話をいただいた。

- ・石川県は魅力的な場所であるが、問題はいかにタイ人に石川県を知ってもらうかということ。
- ・白川郷、高山、立山黒部は既にタイ人に知られており、小松空港からそれらへのアクセスを伝えていくことで個人旅行者は増える。
- ・石川県をタイのメディア等に取材させる等で、飛行機は本社で、宿泊先を石川県で提供し、より情報を発信できるような機会を作ればよい。

#### ●大京タイランド

大京は小松市に本社を置く建設機械運転席ユニットを製造する会社であり、日本に3工場、中国に3工場、タイに1工場あるグローバル企業である。タイ国内でのビジネスの状況について話を伺った。

- ・日本国内では、人材確保が難しく、中国、タイへ業務をどんどん移管している。
- ・大京タイランドでは月収1～2万バーツ(3.6万円～7.2万円)。勤続10年以上のマネージャークラスで月収6～8万バーツ(21.6万円～28.8万円)。
- ・マネージャークラスでないと、日本へ旅行する余裕はないと思われる。

大京として、古いパソコンを近隣の小学校に送るなど貢献活動を行っているとの説明があり、このような日々の活動が親日のタイの方々の増加や石川県の知名度をあげるこ

とに繋がっていくのであり、大変ありがたいことだと思う。

#### 最後に

最終日に日本からも観光客も多く訪れている世界遺産のアユタヤを視察した。かつて、16世紀初め、御朱印船貿易に携わった日本人たちが築き、最盛期には2000～3000人以上もの日本人が住んでいたとのことであった。今から500年以上前から約4千キロも離れたアユタヤの地に多くの日本人が住んでいた事実に驚きとともに日本とタイとの交流の歴史の深さを感じた。石川県とタイとの交流が、今後ますます拡大し、今後タイと小松空港が定期便で結ばれるよう今後とも尽力していきたいと思う。

## 石川県議会派遣 タイ訪問 報告

石川県議会議員 吉田 修

平成 26 年 10 月 9 日から 10 月 13 日までの 3 泊(機内 1 泊) 5 日の日程で、「小松空港国際化推進石川県議会議員連盟及び石川県議会派遣 タイ訪問団」の一員としてタイを訪問したので、以下その概要を報告させていただく。

北陸新幹線金沢開業が半年後に迫り、小松ー羽田便の減便も懸念される状況の中、小松空港が今後とも日本海側の拠点空港としての役割を果たしていくためには、国際線の充実が最重要課題であると考えており、昨年引き続き参加させていただいた。

今年度、タイ国際航空（バンコク・スワンナプーム国際空港）との間で双方向チャーター便が 3 便運航されることとなり、今回、その第 1 便を利用して、タイ国際航空など航空各社を訪問した。小松空港の利便性・将来性や石川県と北陸の魅力などを PR しながら、定期便就航に向けた更なる働きかけを行ったほか、タイ国政府観光庁や現地進出の県内企業（8 番らーめん、大京タイランド）も訪問し、タイの観光事情やビジネス事情等について調査を行った。

小松空港の国際線定期便の現状については、台北、ソウル、上海の 3 路線（ほかにルクセンブルク貨物便）を運行しているところ、国際線利用者数は、順調に増加しており、昨年度は対前年度比 111%の 167, 151 人と過去最高を記録した。

こうした中、タイについては、直行便がないにもかかわらず、石川県へ多くの観光客が訪れており、2013 年のタイから石川・北陸へ、石川・北陸からタイへの訪問者数は、いずれも前年比で約 2 倍近い伸びとなっている。

また、特別名勝「兼六園」におけるタイからの観光客数も前年比 182%の 4, 380 人と急増しており、将来の小松・タイ定期便化に向けて、好条件が整いつつあるものと思われる。

1 日目と 2 日目に訪問したタイ国際航空では、スティー部長（1 日目）及びウィワット副社長（2 日目）に対し、今回を含む 3 回の双方向チャーター便の全てに資材を提供いただいたことへの御礼をしつつ、来年度以降のチャーター便就航及び将来の定期便開設の協力依頼を行った。

同部長からは、千歳空港や仙台空港の成功例のように定期便就航には、チャーター便を 2～3 か月に 1 往復程度の実績をつくることが重要で、またその積み重ねが定期便の可能性を高めるとのご意見をいただいたほか、石川県には豊富な観光資源や綺麗な観光地があるとの認識も示されるなど、期待感を抱かせるものがあった。

また、同副社長からは、中・長期的な戦略として、小松のほか、鹿児島、岡山、広島など、路線を増やす計画はあるが、チャーター便の回数を増やすことが必要であること、さらに札幌の場合でも、年20便くらいのチャーター便を10年間という実績をもつての定期便就航となったという話をいただき、あらためて実績づくりの必要性を実感した。

タイ国政府観光庁では、ワラパー東アジア支局長と面会し、協力要請、調査を行ったところ、タイの新しい観光スポーツ大臣は日本企業（東芝タイランド）の会長を兼ねており、日本への造詣も深く、日本市場を重要視していることや、タイ人にとって日本は夢の旅先であり、昨年タイから日本への訪問者数が45万人以上となり、驚異的な伸びを示しているとのことであった。

また、観光スポーツ大臣とJTB、HIS等日本の大手旅行会社代表との会談の中で出た話で未公表であるが、タイから日本へ100万人、日本からタイへ200万人の相互交流300万人をキーワードに取り組むこととなったという情報も入手できた。

タイ・エアアジアXでは、サリット事業開発部長ほか3名と面会し、石川県、北陸の状況をPR・説明しつつ、日本国内にも定期路線を持つ同社の路線展開の方針等について調査を行ったところ、同社は、ソウル、成田、関西に就航しており、営業面でも日本に注目しているとのことであった。

今後は、石川県をタイ人に知ってもらう方法をいかに工夫するか、双方向での需要喚起に向けたプロモーション活動の活発化が必要、とのアドバイスもいただいた。

#### 〔まとめ〕

今回の訪問では、バンコク市街地における高層ビルの建設ラッシュを目の当たりにし、タイ国の好景気を実感できたとともに、将来の定期便の就航には、あらためて、チャーター便などの実績づくりやその実績の積み重ねが大変重要であることを思い知らされたところである。

さらに、石川県や北陸の知名度がまだまだ低いことから、真の日本とも言われる金沢の魅力や石川県・北陸の豊富な観光資源などを、いかにタイの人々にPRするかが喫緊の課題であることが判明した。

今後とも、こうした県執行部と連携した取組みにも積極的に参加するなど、県勢の発展に尽力していきたいと考えている。

## 石川県議会派遣 タイ訪問 報告

石川県議会議員 米 光 勲

平成26年10月9日から10月13日まで、「小松空港国際化推進石川県議会議員連盟及び石川県議会派遣 タイ訪問団」の一員としてタイを訪問したので、その概要を以下のとおり報告する。

県民の悲願である北陸新幹線金沢開業を半年後に迎えることとなる一方で、小松空港においてはその影響を受けることが予想され、小松・羽田便の搭乗率減少などが懸念される状況となっている。

こうした中、小松空港では昨年8月には、国際線利用者のための第2国際線駐車場を新設したほか、国際線の出入国を同時に複数可能とするためのボーディング・ブリッジの増設や国際線待合室及び免税店の拡充など、ハード面の環境を向上させたところであり、後は、ソフト面でのより一層の活性化が課題と考えられる。

小松空港の国際線の現状については、台北、ソウル、上海の3路線が定期運行しているところ、国際線利用者数は3路線ともおおむね順調に増加しており、昨年度の利用者数は対前年度比11%増の167,151人と過去最高を記録したとのことである。

また、今回訪問したタイについては、小松空港との直行便がないにもかかわらず、タイ・北陸間の観光客は年々増加しており、昨年の前年比で約2倍の伸びとのことであり、タイとの定期便就航に向けては、今まさに積極的な働きかけが必要との思いを強くして参加した。

まず、最初に訪問した「タイ国際航空」のスティー部長に対し、福村団長から今後のチャーター便就航と将来の定期便開設に向けた協力依頼を行ったところ、同部長からは、千歳空港が定期便となった成功例を示され、チャーター便を2～3か月に1往復程度の実績を数年間積み重ねることが前提となる旨の説明があったとともに、石川県には豊富な観光資源や綺麗な観光地があることから、今後の可能性について期待を抱かせる旨の言葉もいただいた。

次に、「タイ国政府観光庁」を訪問し、ワラパー東アジア支局長に対し、小松・タイ間の定期便開設に向け、タイ国政府観光庁の協力をお願いしたところ、タイ人にとって、日本は夢の旅先であり、昨年は45万人以上のタイ人が日本を訪れ、驚異的な伸びを示しているとのことであり、東京、京都、大阪の次の観光地を探しているとのことであった。しかしながら、石川県が日本の他の地域との競争にうち勝つ必要があることを示唆されたものであり、タイ人に石川県の魅力をアピールする

必要があるとのことであった。

また、「タイ国際空港」のウィワット副社長との面談では、今年度、双方向のチャーター便を実施することとなり、全てタイ国際航空から機材提供を受けたことのお礼と併せ、小松就航への検討を依頼したところ、中・長期的な戦略として日本市場への路線を増やす計画があるが、チャーター便の回数を増やすなど実績をつくる必要があるとのことであった。

3日目（11日）には、バンコク中心部のショッピングモール内で、本県からの現地進出企業である「ハチバン」を視察し、タイでの「8番らーめん」の店舗数が108店舗まで増えているなど、頼もしい活躍ぶりを拝見したが、麺やスープをタイ人の好みに合わせているなど、企業努力がなされていることを実感した。

続いて、同モール内で、石川県のプロモーションを視察し、PR映像の放映や、旅行商品の案内等が行われていたが、中でも金箔貼り体験に参加者が多く、伝統工芸にも人気があることが分かった。

次に、現地進出企業で建設機械の運転席ユニットを製造している「大京」の工場を視察し、激励とともに石川県の名前をタイに売り込んでもらうことなどを依頼したほか、情報交換を行った。タイは貧富の差が激しい国で、勤続10年以上のマネージャークラスでなければ日本へ旅行する余裕はないが、タイ人の従業員は全員日本に行きたがっているとのことであり、ここでも日本が憧れの国であることが分かった。

最後に、今回の訪問では、小松空港との将来の定期便の就航に繋がる確たる約束は得られなかったものの、チャーター便の実績づくりが非常に重要であり、その実績をさらに積み重ねる必要があることなど、目標が明確になったと思う。

また、石川県・北陸の知名度をアップするためのプロモーションやその方法など、まだまだ取り組むべき課題が多いこともあらためて実感した。

今後とも、タイ国政府や航空各社等に対する働きかけを粘り強く継続する必要があることから、私としても、こうした議会と県が連携した取組みに積極的に参加するなど、小松空港の活性化・国際化に引き続き尽力していきたい。